

■武田五一 建築家。近代日本を代表する「関西建築界の父」。多くの後進を育成し、建築以外の分野も多数手掛けた。

ただだごいち

学問のすすめ1872 = 広島県福山で、元備後福山藩士で司法官の家に生まれる。

明治6年政変 1873 = 1歳：

絵の好きな父親の影響で、幼時より写生をし、デッサン力を身につけて行く。

明治14年政変1881 = 9歳：

父の転勤に従って、各地を転々として育ち、

帝国憲法発布1889 = 17歳：

帝国議会始・1890 = 18歳：

中学の頃には生物学に惹かれるなど、博物誌的な観察力にも秀で、

日清戦争始・1894 = 22歳：京都第三中学校から、東京帝国大学造家学科に進む。

卒業論文で、明治以降では初の茶室を研究し、卒業設計は音楽学校とコンサートホールの様式建築、
八幡製鉄始・1897 = 25歳：卒業し、大学院に進学。

Bushidou・・1899 = 27歳：*妻木頼黄に見出されて、「日本勧業銀行本店」の製図監督となって完成にこぎつけ、

ピアノ/国産化・1900 = 28歳：この頃結婚。大学院を中退し、東大助教授に就任。

田中正造直訴1901 = 29歳：文部省より命ぜられ、図案研究のためヨーロッパに留学、

ロンドンでは英国国民図案懸賞競技の室内意匠で皇后賞。ウィーンではセセッションに影響されて、

日比谷公園・1903 = 31歳：アメリカを回って、帰国。京都高等工芸学校(京都工芸繊維大学)教授となり、図案科を創設、

日露戦争始・1904 = 32歳：京都府技師を兼任し、古社寺の調査や修復に関わり始める一方、「求道学舎」を創設した真宗大谷派僧近角常観の依頼で、「求道会館」の設計に着手、早速セセッションを取り入れるも着工に至らず、

日露戦争終・1905 = 33歳：

韓国反日暴動1907 = 35歳：*日本初のセセッション建築「福島行信邸」から建築家として出発。以後「名和昆虫研究所記念館(岐阜)」ほか
次々設計。京都帝国大学文科大学講師を囑託される。

アヲチ 創刊・1908 = 36歳：大蔵省臨時建築部技師を兼任。矢橋賢吉とともに 帝国議会及び諸官衙建築調査のため欧米に赴き、

伊藤博文暗殺1909 = 37歳：「京都府立図書館」。帰国。囑託として議事堂の設計に関わる。

教え子や発掘した製図工らを指導しながら多数の建築を設計して行くだけでなく、橋や公園、家具やテキスタイルなども手掛け、欧米の新しいデザインも次々日本に紹介。

明治天皇没・1912 = 40歳：「円山公園(京都)」。パナマ太平洋万国博覧会事務取扱を囑託され、米国出張。

大正政変・・1913 = 41歳：「同志社女子大学ジェームス館」。帝国ホテル建設のため来日のフランク・ロイド・ライトとも親交、

第一次大戦始1914 = 42歳：「順正・清水店(京都)」 「清水橋(東京)」。「東京大正博覧会審査官として米国出張。

21ヶ条要求・1915 = 43歳：常観のもとによやく資金が集まって、二度の設計変更を経た「求道会館(東京都指定有形文化財)」竣工。
設計料を受取ると封も切らずに弟子に渡す人柄で、この時は設計料全額を常観に寄付して感謝される。

民本主義・・1916 = 44歳：「何有荘洋館(京都)」。「法隆寺壁画保存会委員、

ロシア革命・1917 = 45歳：「瀧安寺鳳凰閣(箕面)」 「芝川又右衛門邸(明治村に移築)」。「古社寺保存会委員となる。

第一次大戦終1918 = 46歳：「河合橋(京都)」 「菱橋(京都)」。「名古屋高等工業学校(名古屋工業大学)校長。

ハルビン条約・1919 = 47歳：「那覇市役所」 「白河院(京都)」 「名和昆虫博物館と昆虫碑(岐阜)」、

大暴落・・・1920 = 48歳：「自邸(京都)」。「*京都帝国大学に工学部建築学科を創設し、教授となる。

原敬首相暗殺1921 = 49歳：「五龍閣(京都)」。「神戸高等工業学校(神戸大学工学部)の設立にも関与。

水平社結成・1922 = 50歳：「京都大学建築学教室本館(京都)」、

関東大震災・1923 = 51歳：「聖トマス学院(京都)」 「桜之宮公園(大阪)」。「震災後、近角常観から求道学舎改築も依頼され、

護憲三派圧勝1924 = 52歳：「春陽堂本社屋(京都)」、

治安維持法・1925 = 53歳：「淀屋橋修正設計(大阪)」。「雑誌{新建築}創刊も指導。

円本時代始・1926 = 54歳：「肥後橋(大阪)」 「渡辺橋(大阪)」 「甲子園大遊園計画」 「藤井斉成会有鄰館」。「「求道学舎」竣工と同時に、一般人向けに住宅建築常識を分かりやすく解説した著作「住宅建築要義」を刊行。

金融恐慌・・1927 = 55歳：中野進一と共同で「京都市役所(1期)」 「島津製作所河原町別館」

共産党事件・1928 = 56歳：「毎日新聞社京都支局」 「御大礼京都市街路装飾」 「対岳文庫(京都・岩倉視関連資料の収蔵庫)」 「春田文化集合住宅1期(愛知)」、

世界恐慌・・1929 = 57歳：御大礼記念京都美術館設計委員に囑託される。

海軍軍縮条約1930 = 58歳：「桜宮橋(大阪)」 「東方文化学院京都研究所」、

満州事変・・1931 = 59歳：「京都市役所(2期)」 「鶴見橋(岡山)」 「熊本大学医学部図書館」 「賀茂大橋」。還暦記念「武田博士作品集」、

五一五事件・1932 = 60歳：「同志社女子大学栄光館(京都)」 「春田文化集合住宅2期(愛知)」 「昭和橋(大阪)」。「京都帝国大学を退職し、

国際連盟脱退1933 = 61歳：「書寫山園教寺摩尼殿(姫路)」。

帝人疑獄事件1934 = 62歳：「三朝大橋(鳥取・登録有形文化財)」。「法隆寺国宝保存工事事務所長となり、

芥川直木賞始1935 = 63歳：「平野橋(大阪)」

日中戦争始・1937 = 65歳：「関西電力京都支店」、

健保+総動員 1938 = 66歳：*法隆寺に向かう車中で倒れ、没した。

「岩崎平太郎の仕事」、近角「求道学舎再生」、インターネット「INAX REPORT」、